

## 建築士のまちづくり活動～「まちのよそおい30年の歩み」ほか

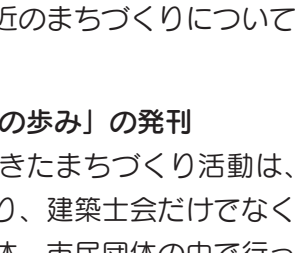
まちづくり委員長 原田正彦

山口建築士が関わる最近のまちづくりについて、2件報告しておきたい。

### ■「まちのよそおい30年の歩み」の発刊

私が仲間と共に進めてきたまちづくり活動は、対象の地域やテーマにより、建築士会だけでなく建築学会、様々な任意団体、市民団体の中で行ってきた。その中でも、景観まちづくり団体「まちのよそおいネットワーク」の設立は1992年と最も古く、会員同士の絆も今でも強い。設立当初は県内の優れた景観を持つ建築を顕彰する「手作り景観賞」を実施し、1995年には士会連合会の「まちづくり賞」を受賞した。2000年にNPOの認可を受けて以後は、近代建築等の「歴史的景観」のほか「農村景観」「河川景観」「都市景観」と対象は広がり、以後様々な活動により、2019年「日本建築学会中国支部中国建築文化賞人物・団体部門」、2022年「第9回 山口市景観賞優秀賞」等の受賞歴を誇る。

2022年に活動が30年を超え、また初代理事長の福田東亜氏が逝去されたことを切っ掛けに、この度「活動30年の歩み」を発刊した。「第一部 まちよそ活動の展開」「第二部 まちよそ活動から学んだこと～会員による自由投稿～」第三部 長谷川堯先生が山口に残されたもの」の三部構成とし、最後に発足1992



▲2023年まちよそ総会の模様



▲30年の活動報告書 (A4版、全95頁)



### ▲まちづくり活動ポスター、チラシを紹介



▲長谷川堯先生の近代建築セミナーでの講演記録

から30年間の「活動年表」も整理掲載している。この「歩み」は関係機関に配布済みで、山口県建築士会の図書コーナーにも数冊置いてある。興味のある方はぜひご一読いただきたい。

### ■秋穂第八十七番札所の落慶法要に出席して

こうした長年の活動の中で培われたまちづくり仲間とのネットワークが功を奏したのが、「八十八力所霊場秋穂第八十七番札所」改修であった。(詳細は「山口建築士」2024.05月号支部だより)

見事な唐破風の向拝を持つこの札所(大正13年建設)は白蟻にやられて倒壊寸前だった。しかし何とか復元をと多額の寄付をされた山本氏→富田氏(秋穂観光コンベンション協会会長)→北島氏(山口市文化財保護課)→原田(HM・まちよそ)→沼田氏(HM・まちよそ・古民家再生G)→重黒木棟梁(古民家再生G)→金子氏(HM・まちよそ・古民家再生G)と、奇跡的なつながりの中、工事発注にこぎつけたのだ。また工事費不足分は、地元幸田地区の住民たちからの寄付、更にクラウドファンディングなどで調達された。

重黒木棟梁の施工により、8か月の工期を経て見事竣工。令和6年5月5日、幸田地区の方々を中心に約40名が現地に招かれ落慶法要が行われた。計画からほぼ3年。時間はかかったが、多くの人々の笑顔を見て、ささやかながらも地域の景観や記憶をつなぐ事業に携われたこと、素晴らしい仲間を持ったことに喜びを感じた一日であった。

